

言語活動が充実していますか？

「思考力・判断力・表現力等が働く言語活動」

各教科等で「言語活動の充実」が重視されています。「言語活動」とは、「言語を駆使した活動」のことであり、「話す」「聞く」「書く」「読む」という行為です。これらは、今までも、ほぼ全ての授業で行われていました。しかし、今、問われているのは、それが充実しているかどうかなのです。福島県教育センターでは、「言語活動の充実」を「子ども一人一人が、思考力・判断力・表現力等を働かせていること」ととらえています。また、「言語活動の充実」が図られた授業には、次の4つの要素が共通してあるとしています。

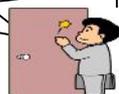
- (1) 「言語活動が位置づけられた指導計画・単元計画」であること
 - ・ 「課題把握、自力解決、比較検討、まとめ」などの授業展開の段階に、確実に一人一人の「思考力・判断力・表現力等」が働く「話す」「聞く」「書く」「読む」などの言語活動を適切に組み込んでいく。
 - (2) 「学びがいのある魅力的な学習課題」が設定されていること
 - ・ 追究意欲を駆り立て、多様な考えが生み出される課題設定をすることで、考える必要感を与える。
 - (3) 授業において「教師によるコーディネート」がしっかりとされていること
 - ・ 教師は、交流の場で、友達の言っていることを理解させたり、共有させたりするための適切な働きかけをする必要がある。
 - (4) 学級が「親和的な学級集団」であること
 - ・ 児童生徒一人一人を大切にされた教師の対応こそが、子どもにとっての安心した言語環境をつくりだす。
- (福島県教育センター
「『言語活動の充実』を図る学習指導の在り方」より)

普段の授業を振り返ってみましょう。一部の子どもを考えや発言だけで授業を展開していませんか？全員が「これはどうすればいいかな？」と考えたり、「私はこう思うんだけど」と話したりしていますか？一人一人に思考力・判断力・表現力等をはぐくむために、それらが働く言語活動を、しっかりと授業の中で行うことが「言語活動の充実」なのです。

・ 不登校が長期化していて、自分自身の気持ちの中でもどうしていいかわからず、諦めていました。研修後はそのようにしていくべきかが考えられ、諦めずに対応していきたいと思いました。

・ 不登校という課題に直面したときは、コーピングスキル、ソーシャルスキルなどを生かし、子どもたちのためになれたらと思いました。

受講生の感想から



「子ども健康教育相談」から

県立高校の募集定員が発表され中学3年生の生徒の進路選択の時期が近づいてきました。

10月の中旬から、中学3年生で不登校傾向が出ている子の相談が続いています。

その中からは、本人や保護者の不安が高まり、展望が開けずに悶々としている様子が伝わってきます。

思春期は2度生まれの時期とも言われ、様々な葛藤を経て自己同一性を確立していきます。

不登校傾向にある子ども自身の道が開けるかどうか自問しています。

保護者の方との連携のうえ、手を差し伸べてくださるよう願っています。



子どもたちの心のケアについて

＝心のケアのための表現活動(作文)の実践例から＝

- ◆ 悲しみ・苦しみを押し込めては日常生活に困ってしまうといった心の病(PTSD)になることもある。そのようなことを防ぐためにも、振り返る表現活動(作文)をすることも有効である。



- ① 回避を続けていけば、恐怖のレベルが下がらないため、安全・安心が保証された場で少しずつトラウマ体験に触れさせながら、恐怖のレベルを下げる。
- ② 大切な人やものがなくなったという喪失感に対して、大切な人やものを心の中にとどめるという作業で心の回復を図っていく。
- ③ 震災の節目の記念行事や報道などに、子どもが無防備にさらされることがないように免疫を作っておく。



【教師とカウンセラーのためのガイドブック】富永良喜著書引用

不登校対策講座②より

不登校と行動カウンセリング(講座資料一部抜粋)

- ◆ 子どもの状態

学校が嫌いだ
辛い・大変だ



行きたい・一緒にやりたい・行かないや

- ◆ 上記の子どもの「家庭訪問」時の留意事項(例)

- ・ 無理に本人と会わない。
- ・ 訪問が登校を促すためではないことをうまく伝える。
- ・ 朝よりは午後がよい。体調を崩している。
- ・ 届け物はタイムリーに。
- ・ 本人に会えたときは、興味のある話題を心がける。